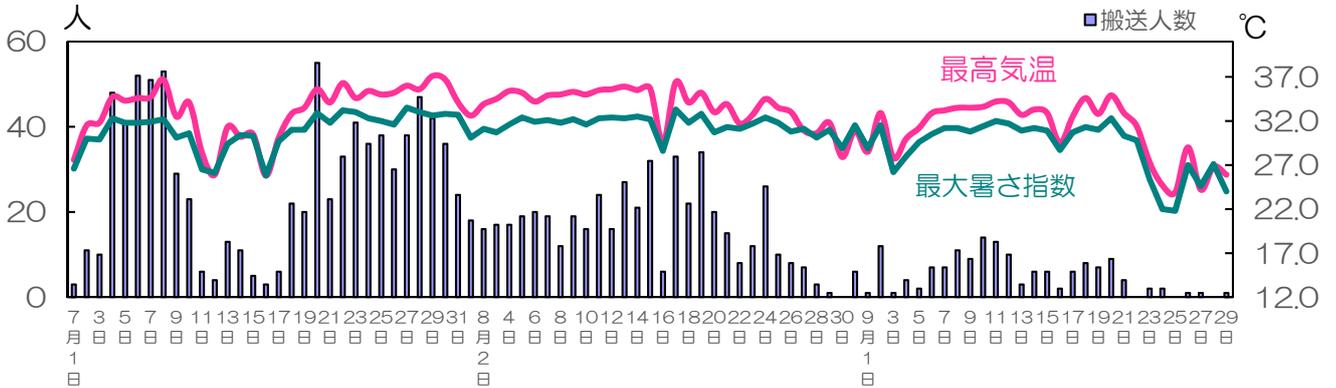


# 熱中症情報

## <搬送数>

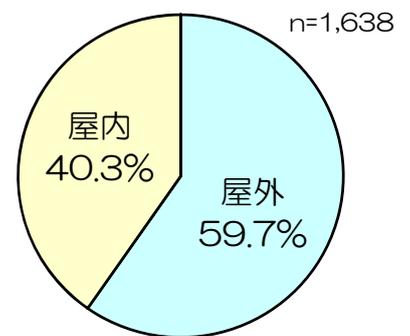
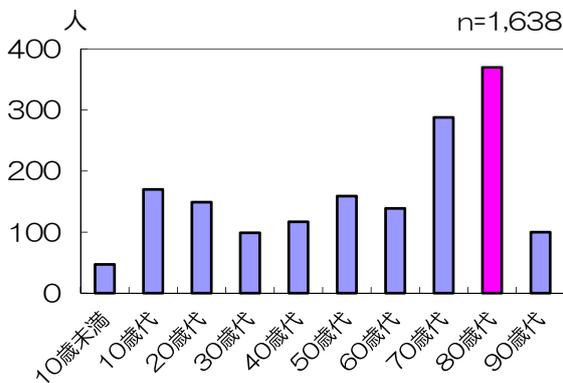
令和6年4月29日～9月29日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,638人（4月0人、5月31人、6月100人、7月854人、8月504人、9月149人）でした。7月4～8日は、最高気温34.3℃以上、暑さ指数31.8℃以上で、搬送数が連日40人以上/日と急増しました。7月20日は、最高気温35.6℃、暑さ指数32.9℃、搬送数が54人と、期間内で最多を記録しました。9月23日以降は、最高気温が30℃以下で、搬送数も、2人以下/日でした。気温の変動が大きいので、体調管理に気を付けましょう。



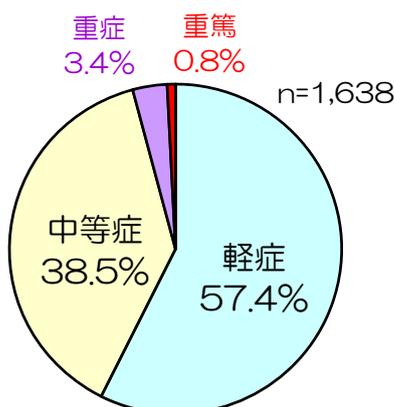
熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。特に、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

**<年齢別>** 80歳代が370人(22.6%)で最も多く、**<発生場所>** 屋外59.7%、屋内40.3%で、次が70歳代で288人(17.6%)でした。屋外での発生が多くなっています。



**<重症度\*>** 軽症57.4%、中等症38.5%、重症3.4%、重篤0.8%でした。高齢者で中等症以上の割合が57.2%と高い傾向が見られました。



| 年齢層              | 軽症   | 中等症  | 重症  | 重篤  |
|------------------|------|------|-----|-----|
| 乳幼児(0~6歳) n=16   | 93.8 | 6.3  | 0.0 | 0.0 |
| 少年(7~17歳) n=167  | 85.6 | 14.4 | 0.0 | 0.0 |
| 成人(18~64歳) n=621 | 68.4 | 28.7 | 0.5 | 0.0 |
| 高齢者(65歳以上) n=834 | 42.8 | 51.2 | 4.8 | 1.2 |

\*重症度の定義(横浜市熱中症情報)

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。